

## 29【P2】Ⅲ-402

アトピー性皮膚炎患者皮膚に定着する好脂性酵母マラセチアの菌相および遺伝子多型解析

○西川 朱實<sup>1</sup>, 杉田 隆<sup>2</sup>(<sup>1</sup>明治薬大・免疫生物,<sup>2</sup>明治薬大・微生物)

【目的】ヒト皮膚常在菌である好脂性酵母マラセチア(*Malassezia*)は、アトピー性皮膚炎の増悪因子であることが示唆されている。この度は、非培養系を用いてマラセチアの菌相を定量解析し、また主要菌種についてはその遺伝子多型を解析した。【材料および方法】アトピー性皮膚炎患者皮膚の皮疹部および無疹部にテープストリッピングを行ない、テープより直接真菌 DNA を抽出した。菌相は菌種特異的 PCR プライマーを用いた nested PCR により解析した。主要菌種については real-time PCR による定量解析を行なった。また、マラセチアゲノム中に short sequence repeat (SSR) を見出したので、患者と健康人由来のマラセチアについてその多型を比較した。【結果および考察】*M. globosa* および *M. restricta* はほぼ全例の患者から検出されたが、他の菌種は 60%以下の検出率であった。検出頻度は多少異なるが菌相は患者と健康人は類似していた。定量解析の結果、*M. globosa* は *M. restricta* よりも有意に皮膚に定着していた。主要菌種である *M. globosa* には、(CT)<sub>n</sub> および (GT)<sub>n</sub> を特徴とする SSR が存在し、その繰り返し回数から系統解析を行なったところ、患者と健康人では異なるクラスターを形成した。以上の結果から、アトピー性皮膚炎には特定の遺伝子型を示す *M. globosa* が重要な役割を示す可能性が示された。また、われわれが患者および健康人から分離した新種 (*M. dermatis*、*M. japonica* および *M. yamatoensis*) についても併せて紹介する。(会員外共同研究者：東京医大・皮膚科、坪井良治)